

■ 第69回 IECケーブルタウン大会の概要

■ IEC/TC51 (磁性部品及びフェライト材料) 香港会議の報告

第69回 IECケーブルタウン大会の概要

—68ヶ国から1,422名が参加—

■ IEC総会の概要報告

第69回IEC総会は、2005年10月21日(金)午前、南アフリカのケーブルタウンで開催されました。

わが国からは、正田英介・日本工業標準調査会(JISC)副会長(東京理科大学)、藤野真司・経済産業省基準認証国際室長、三木弼一・評議会(CB)委員(松下電器産業)、原田節雄・標準管理評議会(SMB)委員(ソニー)などが出席しました。

■ 議事の要旨

1. 主な事項

- (1) IEC会長として偉大な貢献をされた高木昇氏へのお悔やみと紹介が行われ、全参加者による黙祷が捧げられた。
- (2) 2007年総会開催の招聘の確認にあたり、フランスから今後もIEC大会が各国で継続的に招聘できるようにするため、現在のように総会やCB(評議会)、SMB(標準管理評議会)といった上層の会議とTC/SC会議を同時に開催している大会から、TC/SC会議を切り離して行うことによって、規模を大幅に縮小して開催する可能性について提案があった。
各国からも多くのコメントが出され、今後の大会開催のあり方について、引き続き継続審議することとなった。
- (3) オーストラリア、スロベニアなど複数国から、財務関係で問題が提示され、CDF(財務委員会)で引き続き審議することとなった。
- (4) CBの5ヶ国(韓国・メキシコ・フィンランド・インド・オランダ)が承認された(任期は2006年から2008年まで)。これで構成比率が1つ向上し、欧州：非欧州=7：8と逆転した。
- (5) SMB選挙でカナダ、韓国、スペイン(任期は2006年から2008年まで)が承認された。これで構成比率が1つ向上し、欧州：非欧州=8：7とほぼ同等な比率となった。

2. 今後の「IEC総会」の開催予定

- 第70回 2006年 ドイツ(ベルリン)
- 第71回 2007年 フランス(ボルドー又はパリ)
- 第72回 2008年 ブラジル
- 第73回 2009年 イスラエル
- 第74回 2010年 米国

IEC/TC51香港会議の報告

—8カ国から12名が参加—

■ TC51の概要

IEC/TC51は1958年に設立され、国内委員会は当協会が運営しています。取り扱う範囲は、電子、通信分野への使用を目的とした磁気特性を有する部品及び構成品、附属部品、及びその構成品を使ったトランス、インダクタなどであり、国内委員会の委員長は、埼玉大学工学部教授の平塚信之氏です。

WGとして、WG1(フェライト及び圧粉磁心)主査：平塚信之氏(埼玉大学)、WG9(インダクティブ部品)主査：土生正氏(村田製作所)、WG10(高周波EMC対策磁性材料、部品)主査：小川共三氏(日立金属)があり、他にWG5(巻き鉄心及び積層鉄心)とWG7(マイクロ波磁気特性)があります。

磁性部品とその製品は、車載用、EMC関連、通信用電源、トランス用などに使用され、高密度、低背、低損失化が一層進んでおり、新機種用の部品開発も進んでいます。供給側には品質面の向上、低価格、短納期が要求され、多種多様な製品が出回ることが予想される中で、IEC標準の重要性が高まっています。

■ 各WGの概要

(1) WG1(フェライト及び圧粉磁心)は、ソフトフェライト及び圧粉磁心に関する規格作成、及び改訂の審議を行っています。2005年に規格が発行されたIEC62044-2(軟磁性材料—低磁場での磁気特性測定方法)では、ノイズ対策としての用途を考慮し、標準インピーダンスの測定方法を追加しています。改訂では、IEC61332(ソフトフェライトの材質区分)で、新たな

材質区分に標準インピーダンスによるクラス分けを追加しています。この規格を含め、2005年度は既に6件の規格が発行されました。

(2) **WG9 (インダクティブ部品)** は、高周波チップインダクタに関する規格作成に取り組んでいます。最近、4つの国際規格が発行されました。そのうち3つは日本提案です。市場からの部品の高周波化に伴うインダクタへの要求は、ナノヘンリの微小インダクタンスであり、バラバラであった業界間の測定治具の統一に向けて、いち早く規格制定の提案をしました。また進歩が激しいこの分野に対応すべく、既存の規格改訂も積極的に行っています。

(3) **WG10 (高周波EMC対策磁性材料及び部品)** は、2002年に設置されたWGです。携帯電話、パソコンなどの情報通信機器の高周波化と高密度集積化に伴ない、情報通信システム関係の電磁環境は厳しくなっており、近接する部品に電磁干渉を引き起こす恐れがあります。そこで、磁性体の高周波損失特性を利用して機器及び部品から発生するノイズを抑制するノイズ抑制シート (NSS) の国際規格化を日本提案で進めています。この規格を制定することで、NSS技術の世界への普及と発展につながり、ユーザ側にとっても、そのNSSを評価するに当たっての粗悪品と優良品の区別、及び選定の判断基準になることが期待されます。その「Part 2: 測定方法」においては、国際会議で活発な意見交換が行われ、現在、FDIS発行の段階であり、まもなく国際標準として発行される予定です。また、新テーマとして「Part 3: 製品分類」を提案中です。

TC51香港会議の概要

今回の香港会議は、今年3月のオースチン (米国) に次ぐWG1、WG9、WG10の会議で、10月17日に開催されました。TC51のWG会議は、およそ半年のインターバルで開催され、日本からは毎回、三井正国際幹事 (TDK) をはじめ、各WGの担当委員が出席しています。開催地は、委員が出席し易い利便性を考慮して、今回はElectronic Asia (10/13~10/16) の香港開催に合わせた開催となりました。日本からは3名が出席しました。

WG会議では、審議中の文書が14件、新提案として4件の文書が審議されました。いつものように熱心な討議がなされ、日頃、電子メール等でしかやりとりできない中で、直接会って話し合う大切なコミュニケーションの場になっています。

WG1/WG9/WG10会議の議題と討議結果

(1) WG1では、最終段階に向けての文書が5件、新提案文書が2件審議されました。ほとんどが日本提案であり、フェライト材料に関しては、日本が先駆者的立場をもち続けています。既存規格のメンテナンス件数が増えており、時代に沿った内容や使用者に利用し易いように整備することとしました。

(2) WG9では、高周波コイル部品の規格を扱っており今回は、特に日本からの新規格提案「DC/DCコンバータ用インダクタ許容電流値と測定方法」について説明を行いました。出席委員に賛同され、CD (委員会原案) 作成に本格的に取り組むことになりました。

(3) WG10では、先の「ノイズ抑制シートの測定方法」のCDV (投票用委員会原案) 時に各国から提出されたコメントに対する日本の意見が審議されました。CDV作成段階までは、主に日本と米国との間で意見交換がなされ、規格案に沿ってラウンドロビンテストが頻繁に行われました。そして、今回の香港会議で日本の最終的な実験測定結果が示され、合意に近づきました。これにより、FDIS (最終国際規格案) 発行の予定です。NP提案では、日本から「ノイズ抑制シートの区分」について説明を行い、活発な質疑応答がなされました。



写真 1. IEC/TC51香港会議出席者一同